



第148期 年度報告書

(平成23年4月1日～平成24年3月31日) 証券コード:7731

株式会社 **ニコン**

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
当社グループ第148期(平成23年4月1日～平成24年3月31日)の事業の概況並びに連結決算についてご報告申し上げます。

当期の概況

当期の世界経済は、アジアは中国を中心に拡大傾向が続きましたが、欧州政府債務危機の影響を受け、米国及び欧州は回復が鈍化し、また、わが国経済は東日本大震災の影響に加え、世界経済の景気減速や円高、タイの洪水の影響を受け厳しい状況となりました。

事業別では、精機事業においては、半導体・液晶関連市場ともに引き続きメーカー各社の設備投資が堅調に推移しました。映像事業においては、レンズ交換式デジタルカメラ市場は、国内を除く地域で拡大したものの、下期はタイの洪水の影響により当社など一部メーカーの製品供給が落ち込み、コンパクトデジタルカメラ市場はアジアを除く全地域で縮小しました。ま

た、インストルメンツ事業においては、バイオサイエンス関連市況は厳しい環境となり、産業機器関連市況は前年並となりました。

こうした状況の下、当社グループは、東日本大震災に対しては、サプライチェーンの早期再生・強化に取り組み、電力使用量の削減も行いつつ上期中に製品供給を回復しました。また、タイの洪水により昨年10月に「Nikon (Thailand) Co., Ltd.」が浸水し操業を停止しましたが、排水完了から約1カ月後の本年1月には再稼働し、3月末には協力工場とあわせて通常の生産量への回復を実現しました。加えて、これら災害対応の経験を踏まえ、リスク管理体制の再整備にも取り組みました。

また、主力事業において、生産リードタイムの短縮やコスト削減を徹底して行うなど体質改善に努めるとともに、新たな製品により市場の創出を図り、新興国市場の開拓、市場ニーズを的確に捉えた製品の投入、各業務プロセスのスピード向上と

連携強化などを行う一方、新事業の創出にも注力しました。

これらの結果、当社グループの連結業績は、売上高は9,186億51百万円、前期比311億38百万円(3.5%)の増加、営業利益は800億80百万円、前期比260億27百万円(48.2%)の増加、経常利益は893億83百万円、前期比335億71百万円(60.2%)の増加、当期純利益は593億5百万円、前期比319億93百万円(117.1%)の増加となりました。

次期の見通し

当社グループの事業分野に関しては、精機事業では、半導体関連市況、液晶関連市況ともにメーカー各社の急速な設備投資抑制の影響を受け、インストルメンツ事業は、バイオサイエンス関連市況、産業機器関連市況ともに不透明な状況が続くものと予想されます。一方、映像事業では、デジタルカメラ市場は今後も伸長すると見込まれます。

このような状況の下、当社グループは、新たな価値を提供できる競争力のある製品のタイムリーな市場投入に努め、主力事業の事業拡大と収益性向上を図るとともに、健康・医療分野

など、ニコンのコア技術を活かした新事業の育成により、ニコンブランドを一層拡がりのあるものとしてまいります。また、各事業機能の連携強化による事業プロセス全体の最適化、環境変化に柔軟かつスピード感をもって対応できる企業体質の実現、CSRを常に意識した事業活動のグローバル展開を図ります。さらに、より強固なリスク管理体制の整備に取り組むとともに、災害発生時の被害の最小化に努めます。

これらの施策を通じて、常に新たな価値を提供し、成長し続けることができるニコングループを目指してまいります。

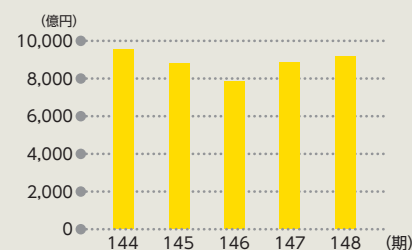
株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月

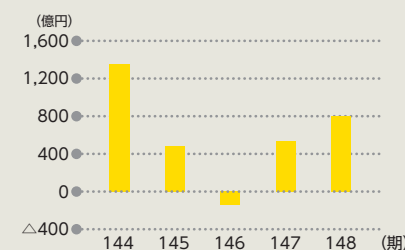


取締役社長兼社長執行役員
木村 真琴

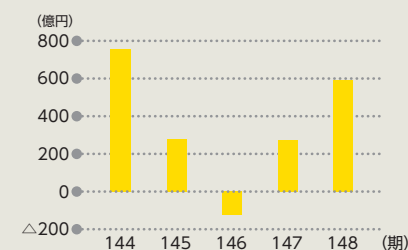
売上高



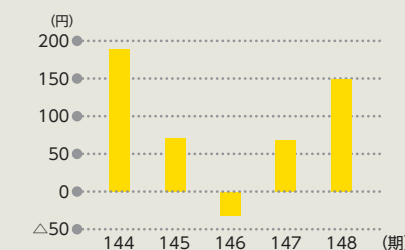
営業利益



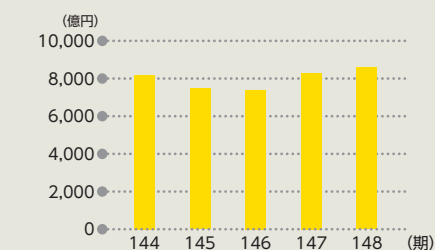
当期純利益



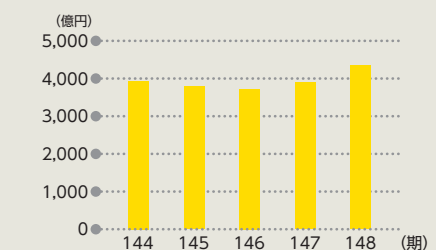
1株当たり当期純利益



総資産



純資産





ニコングループは、本年5月に新たな中期経営計画を発表いたしました。創立100周年に向けて、「常に新たな価値を提供し成長し続けるニコングループ」となるために、CSRを常に意識しながら「連結売上高1兆2,500億円、営業利益1,500億円」という平成26年度経営数値目標の達成にグループ一丸となって挑戦してまいります。

経営環境

事業環境全般

世界の経済環境は不安材料はあるものの緩やかに成長

国内の経済環境は厳しい状況が続く

為替の円高傾向は継続

主要事業の事業環境

精機事業

- 半導体分野は平成24年後半以降回復
- 液晶分野は平成24年は低迷するが平成25年以降に回復

映像事業

- レンズ交換式デジタルカメラ市場は成長を維持
- コンパクトデジタルカメラ市場は成熟、ただし新興国での拡大は継続

インストルメンツ事業

- バイオではライブセルイメージング分野、産業機器では非接触三次元測定機分野が成長
- アジア市場拡大が継続

中期経営計画の重点課題

事業強化とポートフォリオ改善

- ・既存事業の事業拡大と収益性向上
- ・企業や研究機関とのアライアンスも視野に入れたグループの柱となる新事業の育成

事業機能強化と業務プロセス改革による強靱な企業体質の実現

CSRを常に意識した事業活動のグローバル展開

経営数値目標(全社)

| | 平成23年度(実績) | 平成24年度 | 平成26年度 |
|-------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 売上高 | 9,186億円 | 10,300億円 | 12,500億円 |
| 営業利益 | 800億円 | 900億円 | 1,500億円 |
| 当期純利益 | 593億円 | 650億円 | 950億円 |
| 為替の前提 | USDドル 79円 ユーロ 109円 | USDドル 80円 ユーロ 105円 | USDドル 80円 ユーロ 105円 |

*本経営数値目標は、直近における市場予測等の情報及び為替相場などの前提に基づき作成したものであり、実際の実績は、それらを含めてさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

事業方針

精機事業

- 液浸露光装置の競争力強化によるシェア拡大
- 高精細化、高精度化に対応した液晶露光装置の展開
- リードタイム短縮・コストダウンによる収益力強化
- 新技術の開発・新事業分野への進出

映像事業

- 技術力で明確に差別化された商品の継続的投入
- 新興国でのブランド確立とリーディングポジション獲得
- 調達力強化をはじめとするコスト競争力の抜本的向上
- 平成26年度営業利益率15%の実現

インストルメンツ事業

- 顕微鏡：先端研究分野に加えて一般研究・臨床分野においてもリーディングポジション獲得
- 測定機：非接触測定分野でリーディングポジション獲得
- 成長性の高い新興国市場への注力

設備投資・研究開発計画

平成24年度～平成26年度の累計

新製品及び技術開発、生産能力の強化・合理化・省力化、新たな事業展開に必須の設備投資を行います。研究開発費は売上高比7%を維持します。

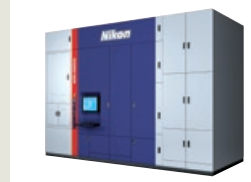
設備投資

総額1,600億円
(前回計画比100億円増額)

研究開発費

総額2,500億円
(前回計画比400億円増額)

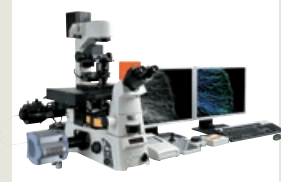
精機事業



映像事業



インストルメンツ事業



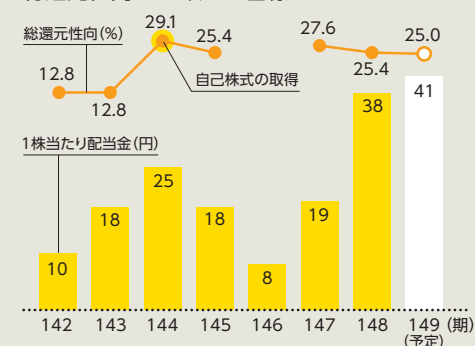
新規事業の創出

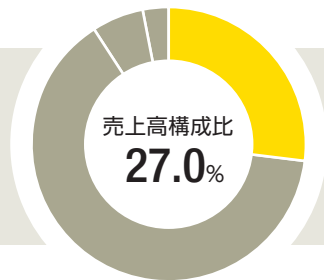
当社のコア技術との相乗効果が狙え、ブランドとの親和性も考慮して「健康・医療分野」を新規事業として選択しました。今後はこの分野に経営資源の投入を行い、事業化を加速していきます。



1株当たり配当金と総還元性向

総還元性向25%以上を目標とする





精機事業

パソコン、携帯電話をはじめとする各種情報機器へ搭載される半導体の生産に欠かせない半導体露光装置事業と、薄型テレビやスマートフォンなどに使用される液晶パネルや有機ELパネルの生産を支える液晶露光装置事業から成り、光利用技術及び精密技術を核とした、最先端の商品・サービスを提供しています。

当期の概況

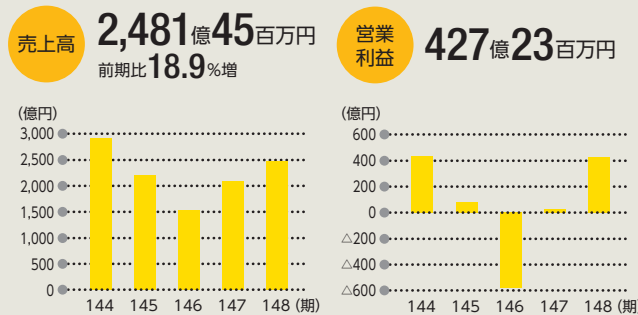
当事業関連市況は、半導体・液晶関連分野のいずれにおいても、メーカー各社の堅調な設備投資が継続しました。

このような状況の下、半導体露光装置分野では、ダブルパターニング対応のArF液浸スキャナー「NSR-S620D」を中心に拡販に努めました。また、精度や生産性をさらに向上させた新製品「NSR-S621D」の出荷を開始しました。

液晶露光装置分野では、スマートフォン・タブレット型端末などの量産に最適な高精細・中小型液晶ディスプレイ用の装置が順調に推移したほか、新製品の開発にも注力し、生産性と解像度を向上させたマルチレンズシステム搭載の「FX-66S」などの出荷を開始しました。

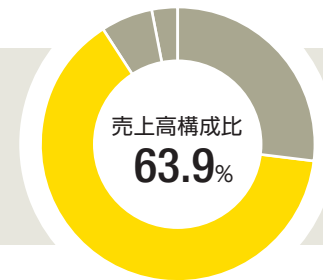
また、工期短縮やコスト削減など収益構造改善への取り組みにも事業全体を通じて継続的に努めました。

これらの結果、当事業の売上高は2,481億45百万円、前期比18.9%の増加となり、営業利益は427億23百万円となりました。



主要製品

- 半導体露光装置
- 液晶露光装置



映像事業

プロ仕様から初心者向けまでラインナップを取り揃えたレンズ交換式デジタルカメラや交換レンズ、高性能で使いやすいコンパクトデジタルカメラのCOOLPIXシリーズなど、映像関連商品や、その周辺領域の商品・サービスを提供しています。

当期の概況

当事業関連市況のうち、レンズ交換式デジタルカメラ市場は、震災の影響もあり国内は縮小したものの、米国・欧州・アジアでは拡大しました。一方、コンパクトデジタルカメラ市場は、アジアを除く全地域で縮小しました。

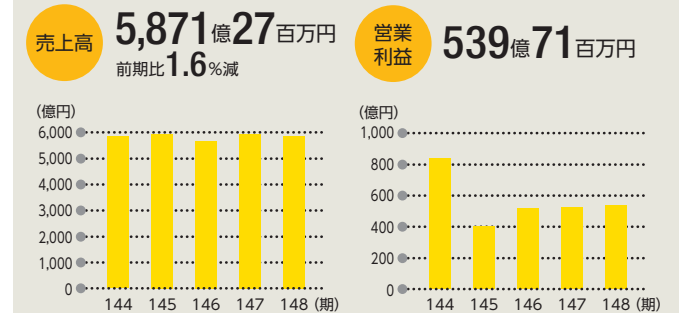
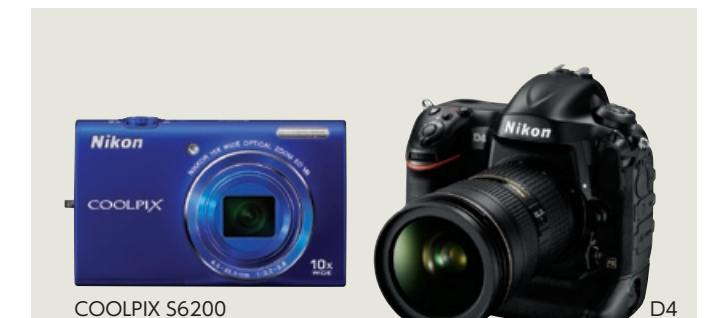
このような状況の下、レンズ交換式デジタルカメラは、下期にタイの洪水の影響を受けデジタル一眼レフカメラの生産は減少しましたが、上期が順調であったことに加え、昨年10月に発売した「Nikon^{ワン}」の販売も好調であった結果、全体では前期を上回る販売数量を達成しました。また、本年3月には次世代フラッグシップ機「D4」、圧倒的な高精細・高画質を実現した「D800」を発売し、好評を博しました。

コンパクトデジタルカメラは、高性能モデルの「COOLPIX P7100」、スリムモデルの「COOLPIX S6200」、「COOLPIX S3100」などのP・Sシリーズが好調に推移した結果、市場が縮小するなか、販売数量は過去最高を大幅に更新し、欧州では当事業年度のトップシェアを獲得しました。

交換レンズは、順調に販売を伸ばし、昨年10月には「NIKOR」レンズの累計生産数が6,500万本を達成しました。

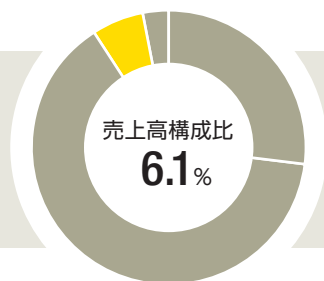
また、アラブ首長国連邦ドバイに販売子会社「Nikon Middle East FZE」を設立し、中東、アフリカ、西・南アジアでの販売・サービス体制の強化を図り、新興国市場開拓を進めました。

これらの結果、円高の影響もあり、当事業の売上高は5,871億27百万円、前期比1.6%の減少となり、営業利益は539億71百万円となりました。



主要製品

- レンズ交換式デジタルカメラ
- コンパクトデジタルカメラ
- 交換レンズ
- フィルムカメラ
- 望遠鏡



インストルメンツ事業

バイオテクノロジー研究を支える生物顕微鏡などを扱うバイオサイエンス事業と、精密機械部品や半導体関連などで使用される工業用顕微鏡、測定機、半導体検査装置を扱う産業機器事業から成り、最新のデジタル技術と伝統の光学技術を融合した商品・サービスを提供しています。

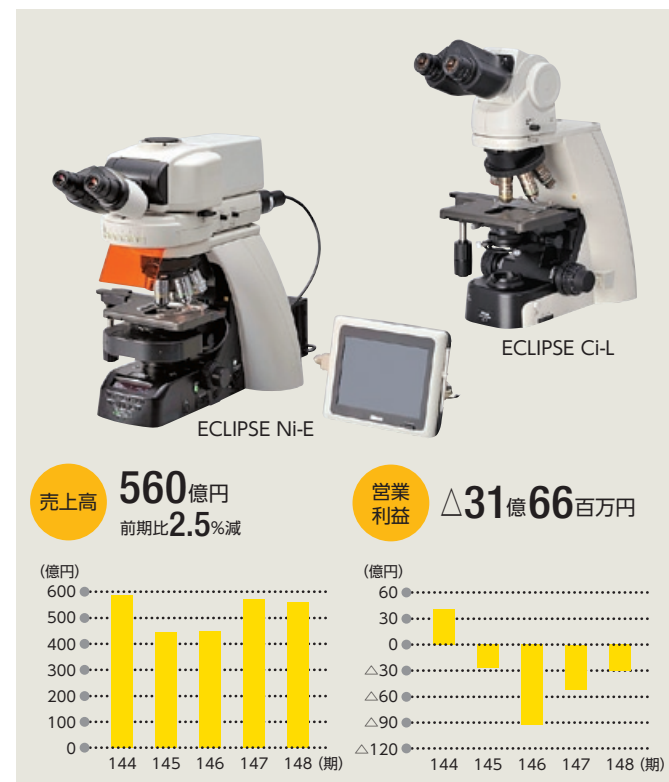
当期の概況

当事業関連市況のうち、バイオサイエンス関連市況は欧米などでの公共予算執行繰り延べの影響により厳しい環境となりました。また、産業機器関連市況はスマートフォン・タブレット型端末関連の設備投資は堅調でしたが、半導体・電子部品関連の設備投資抑制の影響を受けました。

このような状況の下、バイオサイエンス事業では、先端研究分野向けシステム商品に加え、研究・臨床分野で広く使われる生物用正立顕微鏡「ECLIPSE^{エクリプス} Ni/Ciシリーズ」など、主力となる新製品を発売し、拡販に努めました。

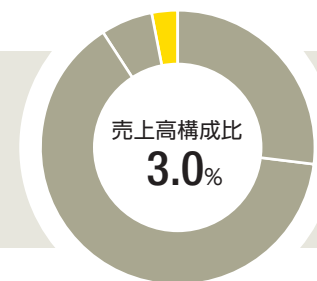
産業機器事業では、測定顕微鏡など既存製品の拡販に努めるとともに、X線装置を含む非接触三次元測定機の開発・販売に注力しました。

これらの結果、当事業の売上高は560億円、前期比2.5%の減少となり、営業損失は31億66百万円となりました。



主要製品

●生物顕微鏡 ●工業用顕微鏡 ●測定機 ●半導体検査装置



その他の事業

宇宙関連製品をはじめとする特注機器を扱うカスタムプロダクツ事業、最先端の液晶ディスプレイ用パネルを製造するために欠かせない液晶フォトマスク基板などを扱うガラス事業などがあります。

当期の概況

カスタムプロダクツ事業では、宇宙関連製品や固体レーザーの拡販に努め、売上げを大きく伸ばしました。ガラス事業では、液晶フォトマスク基板や光学部品などの拡販に努めました。

この結果、これらの事業の売上高は273億79百万円、前期比11.7%の増加となり、営業利益は41億80百万円となりました。



製品

●特注機器 ●液晶フォトマスク基板

※1 当期より各事業の費用に関する業績管理方法を変更し、研究開発費、用益提供費等のうち、基礎研究及び本社機能等にかかる一部費用について、各事業の費用から除いております。この変更により当期の各事業の営業利益は、精機事業で63億6百万円、映像事業で101億3百万円、インストルメンツ事業で13億14百万円、その他の事業で5億70百万円、それぞれ増加しております。なお、連結売上高、連結営業利益及び各事業の売上高には影響いたしません。

※2 事業別の営業損益には、当社グループ内取引において生じた損益を含んでおります。

※3 当期より「デジタル一眼レフカメラ」及び「レンズ交換式アドバンスカメラ」を総称して「レンズ交換式デジタルカメラ」としております。

※4 当期より「望遠鏡事業」を「その他の事業」から「映像事業」に移管しております。これに伴い、映像事業及びその他の事業の前期比の算出については、前期実績を新区分に組み替えて対比しております。

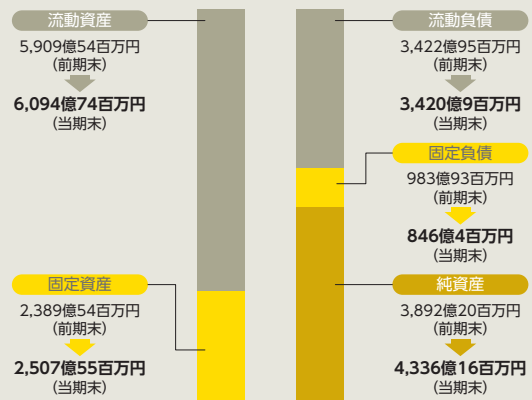
連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|--------------|--------------|--------------|
| | 平成24年3月31日現在 | 平成23年3月31日現在 |
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 609,474 | 590,954 |
| 固定資産 | 250,755 | 238,954 |
| 有形固定資産 | 130,943 | 119,016 |
| 無形固定資産 | 33,085 | 39,473 |
| 投資その他の資産 | 86,727 | 80,465 |
| 資産合計 | 860,230 | 829,909 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 342,009 | 342,295 |
| 固定負債 | 84,604 | 98,393 |
| 負債合計 | 426,613 | 440,689 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 453,017 | 405,241 |
| 資本金 | 65,475 | 65,475 |
| 資本剰余金 | 80,711 | 80,711 |
| 利益剰余金 | 319,823 | 272,227 |
| 自己株式 | △12,992 | △13,173 |
| その他の包括利益累計額 | △20,005 | △16,448 |
| その他有価証券評価差額金 | 3,061 | 4,450 |
| 繰延ヘッジ損益 | △1,592 | △696 |
| 為替換算調整勘定 | △21,474 | △20,201 |
| 新株予約権 | 604 | 427 |
| 純資産合計 | 433,616 | 389,220 |
| 負債純資産合計 | 860,230 | 829,909 |

総資産の構成

総資産 8,602億30百万円



連結貸借対照表のPOINT

- **総資産**
当連結会計年度末における流動資産の残高は、6,094億74百万円(前連結会計年度は5,909億54百万円)となり、185億19百万円増加しました。これは主に、売上債権及びたな卸資産が増加したことによるものです。
当連結会計年度末における固定資産の残高は、2,507億55百万円(前連結会計年度は2,389億54百万円)となり、118億1百万円増加しました。これは主に、タイ洪水被害により新規に代替設備を購入したことによるものです。
- **負債**
当連結会計年度末における流動負債の残高は、3,420億9百万円(前連結会計年度は3,422億95百万円)となり、2億86百万円減少しました。これは主に、代替設備の購入に係る未払金が増加する一方、仕入債務が減少したことによるものです。
当連結会計年度末における固定負債の残高は、846億4百万円(前連結会計年度は983億93百万円)となり、137億89百万円減少しました。これは主に、年金掛金を一括拠出したことにより退職給付引当金が減少したことによるものです。
- **純資産**
当連結会計年度末における純資産の残高は、4,336億16百万円(前連結会計年度は3,892億20百万円)となり、443億96百万円増加しました。これは主に、当期純利益593億5百万円を計上したことにより利益剰余金が増加したことによるものです。

連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|----------------|-----------------------|-----------------------|
| | 自平成23年4月1日至平成24年3月31日 | 自平成22年4月1日至平成23年3月31日 |
| 売上高 | 918,651 | 887,512 |
| 売上原価 | 567,000 | 575,535 |
| 売上総利益 | 351,651 | 311,977 |
| 販売費及び一般管理費 | 271,570 | 257,924 |
| 営業利益 | 80,080 | 54,052 |
| 営業外収益 | 11,917 | 9,860 |
| 営業外費用 | 2,614 | 8,101 |
| 経常利益 | 89,383 | 55,811 |
| 特別利益 | 16,144 | 121 |
| 特別損失 | 19,360 | 9,427 |
| 税金等調整前当期純利益 | 86,168 | 46,505 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 26,627 | 13,096 |
| 法人税等調整額 | 235 | 6,097 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 59,305 | 27,312 |
| 当期純利益 | 59,305 | 27,312 |

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 自平成23年4月1日至平成24年3月31日 | 自平成22年4月1日至平成23年3月31日 |
| 少数株主損益調整前当期純利益 | 59,305 | 27,312 |
| その他の包括利益 | △3,557 | △6,989 |
| その他有価証券評価差額金 | △1,398 | △1,595 |
| 繰延ヘッジ損益 | △895 | △666 |
| 為替換算調整勘定 | △1,272 | △4,230 |
| 持分法適用会社に対する持分相当額 | 9 | △496 |
| 包括利益 | 55,748 | 20,323 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る包括利益 | 55,748 | 20,323 |

連結キャッシュ・フロー計算書

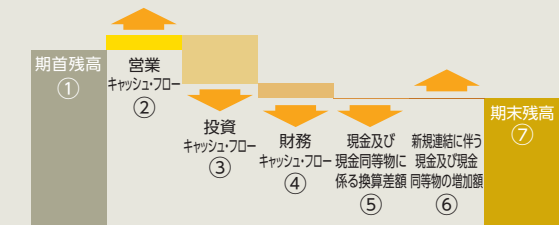
(単位:百万円)

| 科目 | 当期 | 前期 |
|----------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 自平成23年4月1日至平成24年3月31日 | 自平成22年4月1日至平成23年3月31日 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | ② 15,073 | 123,613 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | ③ △49,144 | △23,589 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | ④ △15,150 | △20,122 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | ⑤ △665 | △3,741 |
| 現金及び現金同等物の増減額 | △49,886 | 76,160 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | ① 181,061 | 104,669 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | ⑥ 536 | 231 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | ⑦ 131,711 | 181,061 |

連結キャッシュ・フロー計算書のPOINT

- **営業活動によるキャッシュ・フロー: ②**
主に税金等調整前当期純利益の計上861億68百万円があったものの、売上債権の増加△186億81百万円、たな卸資産の増加△277億3百万円、仕入債務の減少△155億30百万円により150億73百万円の収入となりました。
- **投資活動によるキャッシュ・フロー: ③**
主に有形固定資産の取得による支出357億73百万円により、491億44百万円の支出となりました。
- **財務活動によるキャッシュ・フロー: ④**
主に配当金の支払122億78百万円により、151億50百万円の支出となりました。

キャッシュ・フローの推移





NEWS

「D800」が「カメラグランプリ2012」でダブル受賞

ニコンのデジタル一眼レフカメラ「D800」が「カメラグランプリ2012」において、1年間に国内で発売されたカメラの中から、最も優れた機種として「大賞」を受賞し、さらに一般ユーザーの選考（ウェブ投票）による「あなたが選ぶベストカメラ賞」も受賞しました。これらの受賞は「D800」が36.3メガピクセルのセンサー搭載などにより高解像度・高画質を実現したこと、フラッグシップモデルに匹敵する高い性能・機能を搭載しながらも低コスト化を図ったこと、堅牢性の高いボディの採用により撮影環境を選ばずに使用できることなどが総合的に評価されたものです。



D800

NEWS

東日本大震災による被災地域復興支援の取り組み

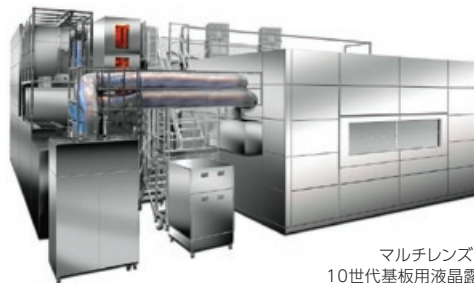
「写真の力で復興支援」のスローガンの下、東日本大震災の復興支援活動を継続的に実施しています。2012年2月開設の「ニコンプラザ仙台」では、写真展示や修理受付業務に加え、NPOなどの支援活動紹介等を積極的に実施しています。また、被災地域の中学校には、写真に言葉を添えた生徒の作品で創るフォトブック制作を支援しています。さらに、従業員の復興ボランティア活動を、特別休暇の付与、交通費・宿泊費の補助で支援しています。



NEWS

第4回「ものづくり日本大賞」で内閣総理大臣賞を受賞

日本の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」に対して贈られる「ものづくり日本大賞」の製品・技術開発部門において、精機カンパニー液晶露光装置事業部の製品開発に携わった5名が内閣総理大臣賞を受賞しました。受賞案件は「大型液晶パネル量産を可能としたマルチレンズ・アレー方式露光装置の開発」。一度に大きな面積を精度よく露光することを可能にしたこの画期的な技術により、大型液晶パネルの効率的量産が可能となり、大型テレビやノートパソコン等の急速な普及を促進し、生活の向上と情報化社会の進展に貢献したことが評価されました。



ものづくり日本大賞

マルチレンズ・アレー方式による10世代基板用液晶露光装置 FX-1015

新製品

ArF液浸スキャナー

NSR-S621D

「NSR-S621D」は、線幅22ナノメートル以下に対応する最先端の半導体露光装置です。液浸露光技術や1つの回路パターンを数回に分けて露光して密集度を高めるマルチプルパターニング技術で、さらなる微細化にも対応可能です。また、NSR-S620Dで実績のある「ストリームラインプラットフォーム」を採用し、重ね合わせ精度2ナノメートル以下、スループット毎時200枚以上という極めて高い精度と生産性を実現しました。



NSR-S621D

新製品

コンパクトデジタルカメラ

COOLPIX S30

写真を撮る、見る楽しさをお子様を含めた家族で共有するという新コンセプトのもとに開発された「COOLPIX S30」。操作しやすい大型ボタンとわかりやすいユーザーインターフェースに加えて、水深3mまでの防水、耐衝撃、防塵性能を備え、公園や水辺などでも気軽に撮影を楽しむことができます。また、フレーム機能、音楽やアニメーション付きのスライドショー、音声メッセージ交換など撮影した画像を楽しむ機能も搭載し、カメラを通じた新しい家族のコミュニケーションを提案します。



ブルー

ホワイト

ピンク

新製品

デジタル一眼レフカメラ

D4

「D4」は、高評価の「D3」シリーズの基本性能を踏襲しつつ、高精細・高画質と優れた高速性能を実現した次世代フラッグシップモデルです。新開発の有効画素数は16.2メガピクセルのニコンFXフォーマットCMOSセンサー（撮像サイズ36.0×23.9mm）と、優れた高速処理能力を実現する新画像処理エンジン「EXPEED3」を搭載。また、ISO 50相当からISO 204800相当までと極めて広い撮像感度域の実現により幅広い輝度状態で高画質を提供し、さらに、進化を遂げた51点AFシステムにより、超望遠NIKKORレンズとテレコンバーターの組み合わせ使用時にも高精度なAFを可能にしたうえ、AF・AEが追従する約10コマ/秒の高速連続撮影が可能となりました。次世代高速メモリーカード「XQDメモリーカード」にも対応するなど、機能や性能を極限まで高めたデジタル一眼レフカメラです。



D4

会社概要 (平成24年3月31日現在)

社名(英文社名) 株式会社ニコン(NIKON CORPORATION)
 本店所在地 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
 TEL (03) 3214-5311
 設立年月日 大正6年(1917年)7月25日
 資本金 654億75百万円
 従業員数 単体 6,549名/連結 24,348名

役員及び執行役員 (平成24年6月28日現在)

1. 取締役及び監査役

取締役社長 木村 眞琴
 取締役兼CFO 伊藤 純一
 取締役 牛田 一雄 正井 俊之 岡本 恭幸 橋爪 規夫
 大木 裕史 金澤 健一 松尾 憲治 樋口 公啓
 常勤監査役 河合 芳道 長井 良幸
 監査役 可児 晋 上原 治也 畑口 紘

2. 執行役員

社長執行役員 木村 眞琴
 副社長執行役員 伊藤 純一
 専務執行役員 牛田 一雄
 常務執行役員 正井 俊之 岡本 恭幸 橋爪 規夫 川端 邦雄
 大木 裕史 本田 隆晴 金澤 健一 馬立 稔和
 小坂 庸雄
 執行役員 森下 耕二 風見 一之 今 常嘉 御給 伸好
 浜田 智秀 中島 正夫 下田 治 岩岡 徹
 吉川 健二 中村 温巳 小田島 匠 長塚 淳

事業所 (平成24年3月31日現在)

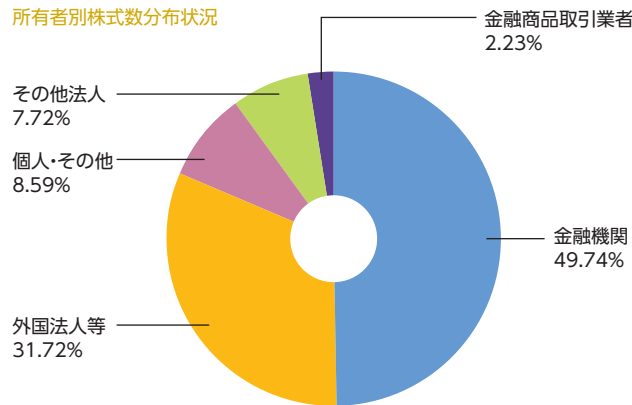
本社 〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1(新有楽町ビル)
 大井製作所 〒140-8601 東京都品川区西大井1-6-3
 横浜製作所 〒244-8533 神奈川県横浜市栄区長尾台町471
 相模原製作所 〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台1-10-1
 熊谷製作所 〒360-8559 埼玉県熊谷市御稜ヶ原201-9
 水戸製作所 〒310-0843 茨城県水戸市元石川町276-6
 横須賀製作所 〒239-0832 神奈川県横須賀市神明町1-15

(注)本年3月1日付にて横浜製作所横須賀分室を組織改編し、横須賀製作所を新設しております。

株式の状況 (平成24年3月31日現在)

■発行済株式総数 400,878,921株
 ■株主数 22,600名
(比率は小数点以下第3位を四捨五入)

所有者別株式数分布状況



大株主

| 株主名 | 持株数(千株) | 持株比率(%) |
|--|---------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 30,063 | 7.58 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 29,851 | 7.53 |
| ジェーピーモールガンチエースバンク380055 | 23,825 | 6.01 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 20,565 | 5.19 |
| ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー | 19,222 | 4.85 |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社 | 9,134 | 2.30 |
| 東京海上日動火災保険株式会社 | 8,054 | 2.03 |
| 日本生命保険相互会社 | 7,893 | 1.99 |
| SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT - TREATY CLIENTS | 7,706 | 1.94 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 7,378 | 1.86 |

(注)持株比率は自己株式数(4,342,128株)を控除して計算しております。

本報告書は、注記のない限り、次により記載しております。
 1. 記載金額及び株式数は、表示単位未満の端数を切捨て
 2. 比率は、小数点以下第2位を四捨五入

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

期末配当金
 受領株主確定日 3月31日

中間配当金
 受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

単元株式の数 100株

公告の方法 電子公告により行います。
 ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載して行います。
 公告掲載URL <http://www.nikon.co.jp/ir/index.htm>

株主名簿管理人
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711(通話料無料)
 三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。

株式に関するお手続きについて

■証券会社等の口座に記録された株式

| お手続き、ご照会等の内容 | お問合せ先 |
|--|--------------------------------------|
| ◎郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ◎支払期間経過後の配当金に関するご照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ | 上記「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。 |
| ◎上記以外のお手続き、ご照会等 | 口座を開設されている証券会社等にお問合せください。 |

■特別口座に記録された株式*

| お手続き、ご照会等の内容 | お問合せ先 |
|---|--|
| ◎特別口座から一般口座への振替請求 ◎単元未満株式の買取(買増)請求 ◎住所・氏名等のご変更 ◎特別口座の残高照会 ◎株式事務に関する一般的なお問合せ | 上記「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部へお問合せください。 なお、お手続き書類につきましては、以下の方法でもご請求いただけます。 |
| 手続き書類のご請求方法 | 音声自動応答電話によるご請求 …… 0120-244-479 (通話料無料) インターネットによるダウンロード …… http://www.tr.mufg.jp/daikou/ |

※株券電子化制度の施行時までには証券保管振替機構(ほふり)に預託されず、その後特段のお手続きをされていない株式は、法令に基づき当社が開設している特別口座に記録されています。特別口座は証券市場での売買を行うことができないなどの制約があります。ご所有の株式が特別口座に記録されている株主様は、上記「株主メモ」記載の三菱UFJ信託銀行 証券代行部にお問合せのうえ、お早めに証券会社等の口座にお振替いただきますようお願い申し上げます。特に、株券電子化施行日に当分の単元未満株式(1株～999株)を所有されていた株主様、お手元当社株券がある株主様は特別口座が開設されている可能性がありますのでご確認ください。



株式会社 **ニコン**

〒100-8331 東京都千代田区有楽町1-12-1 (新有楽町ビル)
<http://www.nikon.co.jp>

UD FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

